＜巻末資料＞

令和７年度　富士市　授業づくりの重点

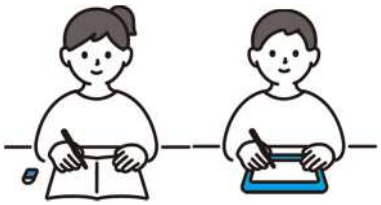
富士市教育委員会学校教育課

ふじの教育
基本方針　「一緒に学ぶ　一生学ぶ」

目指す子ども像
学びを創る子　未来を拓く子

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

資質・能力の育成



「見取り」を生かし、仕掛ける

「学びの実感」を次へつなぐ

目指す授業像
みんなが学びの主人公

「子どもと教材をつむぐ」単元を構想する

社会の変化がより複雑で予測困難となってきている中、これから目指すべき社会とは、人間を中心とした、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会とされています。

学校は、子ども一人一人の個性や多様性を尊重し、その子の持てる良さを徹底して伸ばすことができるよう、授業においては、ICT を有効に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組を進めていくことが大切です。

みんなが学びの主人公となる授業を目指して

「みんなが学びの主人公となる授業」とは、「一人一人が自分ごととして課題に向き合い、自分らしさを発揮しながら、課題解決に向かう中で、資質・能力が育まれる授業」です。

子どもが安心感の中で、みずみずしい感性を働かせながら主体的に学び、生涯にわたって学び続ける力を育んでいくためには、教師による、授業と学習環境のデザインが欠かせません。

昨年度の学校訪問から見えたことを基に、教師が大切にしたいことを三つの柱に整理しました。

「子どもと教材をつむぐ」単元を構想する

単元を構想することは、子どもの思いや願いと教材の価値を教師の関わりや支援でつむいでいくことです。子どもが夢中になって思いや願いを実現しようと学びを楽しむ中で、目標を達成し、資質・能力を育むことにつながるような単元を構想することが大切です。

□学習指導要領解説を読み、育成すべき資質・能力が身に付いた子どもの姿をイメージしましょう。
□子どもが教科等の見方・考え方を働かせて思考する姿をイメージして、教材分析を行いましょう。
□「なぜだろう」「やってみたい」と思う課題を設定し、どの子どもも「できそうだ」と解決の手がかりや見通しをもてるような展開や手立てを考えましょう。
□子どもが「学び方」を自己決定できるような場（教材・教具・学習形態・活動時間・ICT の活用など）を工夫しましょう。

「見取り」を生かし、仕掛ける

単元を通して身に付けたい資質・能力を念頭におき、子どもの多様な表れから、個々の思考の様子や変化を感じて、柔軟に授業を展開し、単元や本時の目標に迫るよう仕掛けます。そのためには、子どもが授業中に見せる表情、しぐさ、つぶやき等の表れの意味や思いを見取ろうとすることが大切です。

□子ども一人一人の思いや考え、背景、学びのつながり、学習集団の傾向などを捉えておきましょう。
□目標に対する子どもの現在地を、常に子どもの姿、思考から追い続けましょう。
□子どもの表れをもとに、情報を提供する、ずれを生かす、問い返す、待つ、視点を示すなど、具体的に仕掛けましょう。

「学びの実感」を次へつなぐ

子どもが、学習内容や活動を自分ごととして捉えることで「学びの実感」を得ることができます。学びの過程で子どもが「できそうだ」「分かってきた」「納得した」「新しい問いが生まれた」など自己の変容を自覚し、「次もやってみたい」という思いを引き出すことが大切です。

□子どもが自らの学習を調整し、粘り強く取り組んでいるかを見届けましょう。
□課題解決に向けて試行錯誤している姿、目標や課題に向けて工夫して取り組んでいる姿を積極的に認め、次につながる前向きな声掛けや関わりをしていきましょう。
□学習過程で生まれた疑問や気付き、活用できる知識・技能や新たな考え方、学習を深めることで得た更なる意欲などを振り返ることで、自分に身に付いた力を子ども自身で確かめることができるようにしましょう。